

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090900073		
法人名	社会福祉法人		
事業所名	グループホーム 桜		
所在地	長野県伊那市高遠町勝間222番地		
自己評価作成日	平成25年10月28日	評価結果市町村受理日	平成26年4月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成25年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲は田畑に囲まれており、自然の中で穏やかに過ごして頂けるよう環境に配慮しております。また、今ままで煙づくりをして生活してこられた方にも活動の幅を広げられるよう野菜作りをしております。昔ながらの行事企画を取り入れ、活動を増やし、外出の機会を積極的に作っています。夏祭り、敬老会、文化祭といった行事も盛大に行っております。段々にレベルが下がってきてしまったご利用者さまの受診時には、ご家族のサポートにも努め、車イスの方を中心に送迎も実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム桜は開所後4年目を運営し、隣接する施設と一体となり、地域との付き合いを大切にしたい取り組みを展開し、地域の方々の理解や協力を得て、勝間地区と防災協定や行方不明者捜索協定を締結したり、多くのボランティアの協力を頂く等、地域密着型サービスの意義や役割を踏まえた取り組みを行っている。ホームは建物の設計上、それぞれのユニットがホールを挟む形にデザインされており、ユニット間の戸を開け放せば一体的なホールになるため、日常的にはユニット毎の生活を基本としつつ、時には自由に行き来したり、合同の楽しみ活動を行う等、有効活用を行っている。また法人全体での研修の充実やキャリアパスの導入等により介護職としての意欲向上や質の確保に努めている。職員は地域ならではの風習を生活の中に取り入れ利用者に対し温かな気持ちで接し、安心感のある穏やかな日常生活を支援している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1 (西))							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(東(2))			
項 目		項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と ○ 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、グループホーム方針を周知するため、事務所・職員休憩室・ホール等に掲示し、理念・方針に基づいた支援に努めています。	法人が有する理念の基に、グループホーム桜の方針や職員の心構えを明示し、事務所やホールなどに掲げ、周知し、意識化を図っている。年度の初めには再確認し、理念や方針に基づいた日々の支援に繋いでいる。	地域密着型サービスの目的や意義を全職員で再確認し、グループホーム桜独自の理念について話し合い、見直しされることを希望する。隣接の施設を含めた今後の見直し計画もあると施設長よりお聞きした。ホームとしても開所後4年目に入り、職員等と振り返る機会を持ち、独自の理念を創り、ケアの根幹に位置づけて行く取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	勝間区民として区費の支払いをしています。また、畑を耕運機で耕して頂いたり、ブルーベリー畑を無料で利用させて頂いたり、生花を頂いたりしており、お礼に事業所でご利用者様とクッキーを作り渡しに行くなど交流に努めています。	区の敬老会に参加し、ホームの栄養士による講話や職員が出席者と一緒に健康体操をさせていただいたり、また多くのボランティアや地域の方々に関心・協力を頂いている。ブルーベリー摘みや大正琴のミニコンサート、菊づくりを指導していただき菊花展への出品や、飾り作りを教えて頂き各居室の入口に飾る等 地域の方々と職員・利用者が共に楽しむ双方向の付き合いを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勝間地区の敬老会に参加し、講演の場を設けて頂き、理解を広げていけるよう活動しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎開催し、事業所の現状・今後の予定や職員体制などを中心に会議を行っています。地区で行われる行事への参加に駐車場などの手配や古布の協力を呼び掛けて頂けるようお願いなど、会議で出た意見を元にそれぞれの立場の方にご協力をいただいています。	会議には区長・民生児童委員や家族代表、市担当者等の出席を頂き2ヵ月毎に開催。ホームの近況や取り組みの状況、依頼事項、行事予定等を報告し意見交換が行われている。それぞれの立場で具体的な意見や提案を頂き、サービスに反映している。区長交代時の連携も積極的な姿勢で臨んで頂いている。	ホームは多くの地域ボランティアの方々（環境整備・愛の会・他など）の自主的・前向きな協力を得ていることから、地域代表者又は地域密着型サービスの知見者として、委員を依頼することも有効と思われる。また外部評価結果等の報告や利用者家族に向けて運営推進会議録の公表を希望する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず市の担当者に来所して頂き情報を頂いています。また、ご家族からの相談等で不明な点について、市町村担当者へ相談し対応しています。	運営推進会議へ市担当者の出席を頂き直接情報交換を行い、また介護相談員受け入れに於いては、派遣結果の報告書を通して意見や指導をいただきながら、連携を深めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で年1回研修会を開催し、身体拘束廃止について周知徹底に努めています。玄関の施錠については検討していますが、改善されていないのが現状です。	法人全体で計画的に研修を行い、ホームの職員も参加・報告を行っている。建物上の課題として、玄関からホールまでが死角になり対応に苦慮する時は玄関の施錠をしている。出来るだけ開放に努めたり、テラスの活用やユニット間を自由に行き来する等、抑圧感のない暮らしを支援している。現状の中で可能な最善の方法について検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修会への参加または、外部研修への参加を通して、虐待についての知識を深める機会を設けています。また、虐待がないかどうか、ケース検討会などを通して確認をしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会はなかなか持てないでいる状況です。成年後見制度を利用されているご利用者は1名いらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・運営事項・個人情報取扱について説明し、それぞれについて、疑問点や不安に感じていることをお伺いし細かく、具体的に説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やカンファレンスでご家族にも参加して頂き、要望や意見を頂けるように努めています。また、重要事項説明書に事業所・市町村・国保連の苦情相談窓口も明記し対応しています。	重要事項説明書に要望及び苦情相談窓口や公的機関や法人として委嘱している第三者委員の連絡先も明記し外部にも意見等を表せる機会があることを伝えている。ホームの様子を定期的にお便りでお知らせし、行事へのお誘いや協力を頂きながら、何でも言ってもらえるような関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年ごとに管理者と職員の面談を実施し、またタイムリーに対応できるよう、会議の場での意見交換を踏まえ運営に反映できるよう努めています。	様々な係り活動を通して職員の主体的な関わりを尊重したり、管理者との職員面談や会議の場で出された意見は上部に伝えられている。施設長は職員意見を取り入れ、運営やサービスに反映するよう努めている。具体的な改善例もあり、またキャリアパスの導入を進め、職員の士気を高める取り組みを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力・業績考課により、職員の資質・力量を把握しています。基準の改正もありましたが、H24年3月11人だった職員に対して現在16人となり、利用者生活の向上は勿論、スケジュール見直しも含め、やりがいを持てるような就業環境改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、また毎週定期的に行いながら、新人研修、委員会の長、エルダーなど経験の長短を問わずその任にあたり、自らの成長を促しています。地元の敬老会に出席し、講演や体操を行うなど、職員育成にも取り組みました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	6月、関東ブロック老人福祉施設研究総会に、管理者、職員の2名が参加し、国の動向や他県の施設の取り組みを研修しました。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人と直接お話しできるよう事前面談を行い、ご本人の困っていることや不安・意向などをお伺いしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様には事業所の様子を見て頂いたうえ、面談する機会を設けています。困っていること、不安要素など細かくお伺いしておき、ご利用者が実際に入所されてからの状況について電話連絡を入れております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所について、居宅ケアマネより情報を提供して頂き、相談・検討しています。また、サービスの導入にあたり、直前で再度ご本人・ご家族に意向を確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアバランスを考え、お互いが「ありがとう」を言い合える関係を築くことができるように、尊敬に配りました関係作りを心がけています。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の状況をお伝えするとともに、ご本人の思いを聞いて頂いたり、行事と一緒に参加して頂くなどケアへのご協力をいただいております。また、カンファレンスには必ず同席して頂き、ケアの目標など共有しています。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に、生活されてきた中での馴染みの場所や人などお伺いし情報は集めていますが、事業者からの働き掛けはなかなかできないでいる状況です。	入所時に、これまでの生活の様子を把握し、一人ひとりのその人らしさを大切にしたい支援を心掛けています。また家族との関係継続を大切に、家族と連携を図り協力を頂いている。墓参りに出かける、ホームの畑の野菜作りや草取りを行う等、これまでの習慣や人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の自然な関係性を大切にしながら、大きなトラブルにならないように、さらなる関係性が築かれるように支援しています。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は、相談があれば同法人の特養へ連絡調整しフォローできるように努めております。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活だけでなく、日々の生活の中で発せられる言葉や表情を大切に「今」の本人の思いをくみ取り個々に合わせた支援に努めています。	職員は利用者の担当を持つ中で、常に利用者の声を聞く姿勢を持ってケアにあたり、把握したことはメモを取り、記録へ落とし職員間で共有を図っている。又センター方式の活用(私のくらし・ひとときシート等)により検討を行い、利用者の思いの把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前やカンファレンス時に、ご家族からも情報を頂き本人の生活のしずらさを少しずつ軽減していけるように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	画一的なケアではなく、日々の変化に目を向けて対応するために、一日の様子を記録に残し、申し送りを行い、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにはご家族、ご本人にも参加して頂き、アセスメントから得た情報をもとに一つひとつの項目について確認しながら計画書を作成しています。	カンファレンスには利用者・家族の出席を頂き意向の把握に努め、アセスメントを含め介護計画に反映させ、毎月事例検討を行い担当者や職員間で意見交換を行い、現状に即した計画を作成している。ケアチェック表を用いて利用者の様子をモニタリング・評価(毎月)を行い、6ヶ月毎や随時の見直しをしている。今月から記録係を中心に日々の記録用紙や記録方法の見直しを行い、現在サンプル的に取り組み中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録に、情報を記載し共有に努め、ケアの中で個々への対応ができるよう配慮しており、アセスメント用紙にまとめる際やケアプラン作成時にも活用しています。ケアプランに沿った記録や評価がきちんとできていないのが現状です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や散歩など、ご本人の希望に出来る限り添えるよう、その場で対応しております。また、急な受診などご家族のニーズにもできる限り対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の文化祭や地元のお祭りなどへの参加に協力頂いたり、また地区のボランティアにも散歩や作業を一緒にして頂いたりする中で、交流の場なども設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続しています。受診時には必要に応じて職員が同行したり、電話やFAXで情報提供し連携がとれるよう取り組んでいます。	利用者や家族の希望するかかりつけ医を継続しており、基本的には家族同行受診となっている。緊急時等必要に応じて職員が同行することもあり、受診時の情報提供や受診後の報告も電話やファクシミリで適切に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養看護師と連携を図り、その都度適切なアドバイスを受けられる体制にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には、情報提供書を持参しております。又、入院後は現状を見に行ったり、電話連絡等で状況をお伺いする中で施設への受け入れ確認などを行っています。入院に備え総合病院へ協力をお願いしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に、事業所として出来ること、出来ないことをご家族に説明し、ご利用者の状況に応じてご家族に相談しながら進めています。	法人内にターミナル委員会があり、今年度は看護長による内部研修が行われている。ホームからも職員が出席し、研修内容の報告を行い共有を図っている。現状におけるホームの支援について入所時に説明をし、状況に応じて家族等の意向を確認しながらホームが出来る最大の支援に努めている。	入所後の重度化や終末期の支援について、グループホーム桜が出来る支援について明確にし、独自の指針を作成し、それを基に家族等に説明を行い、意向を記載し共有していくよう希望する。ホームが有する支援の形を明確に示し、利用者・家族が選択でき、安心と納得のできる支援が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は必ず救急救命講習を受講し、また定期的に法人で行われる研修会に参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際にご利用者全員を誘導する訓練を行い、避難経路について検討、改善に取り組んでいます。夜間の避難訓練の実施は検討中です。また、勝間地区とは防災協定・行方不明者捜索協定を締結しており、運営推進会議でも防災について相談しております。	年2回の避難訓練を行い、今年度は通報・避難誘導・消火訓練を実施し消防署の指導を頂いている。職員に一斉メール配信を試みたり、出火場所に依じた避難経路(スロープの改修等)の見直し等を行っている。また地域との防災協定を締結し、運営推進会議において議題として取り上げ協力体制を築いている。	隣接の施設と連携が図れることは有効的であり、安心感もあるとしても、今後の訓練の中に夜間や地震等を想定した訓練も取り入れ、何時発生するかもしれない災害に対して、職員一人ひとりが具体的な行動がとれるよう希望する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必要な場合もしくは、希望があった場合には本人の承諾の基、居室入口に鍵をつけて個人で管理している。	職員は利用者の名前の呼び方や言葉かけに注意を払い対応している。職員同士で気になる言動がある時は互いに指摘し合い意識化を図っている。何気ない日常の支援も利用者の視点から見直しを行い、プライバシーに配慮した対策を講じている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思をうまく伝えられない方にも動作や表情から思いをくみ取れるようなケアを心がけております。また、思いを聞きけるような声掛けを心がけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活パターンを把握し、個々のペースや希望に合わせたケアを出来る限り心がけております。また、その日の気分による外出などにもできる限り柔軟に対応できるよう取り組んでおります。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	状況に応じて衣服を選んで頂いたり、ご本人・ご家族の希望に合わせて、美容師に月2回訪問して頂き、ご本人の希望に合わせたおしゃれが出来るよう取り組んでおります。パーマや毛染めなど出来るよう体制も整えています。また、ご希望によってネイルケアも行っています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作りはご利用者も一緒に行えるよう出来る力を見極めながら行っています。又、嗜好調査も行い、献立に反映しております。	1週間単位で2ユニット共通の献立を作成。皮むきや盛り付け、食器拭き等を利用者と共に行い食事を毎日の大切な活動のひとつにしている。利用者の嗜好や希望食を取り入れたり、誕生日食の楽しみや四季折々の郷土食や風習(お月見団子・おはぎ・栗の皮むき・吊るし柿等)を大切にした支援を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立作成しており、栄養のバランスには十分配慮しております。又、一日の摂取量を一人ずつ記録に残し状況の把握をする中で、不足している方には栄養補助食品やゼリーを提供するなど工夫しています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり洗面台へ誘導し口腔ケアを促しております。うがいが困難になってきている方にはクルリーナブラシを使用して頂いております。		
43	(16)	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の個々の排泄についてはチェック表をもとにして、職員が把握している。トイレでの排泄を基本として布パンツへの移行を心がけています。	排泄の記録をもとに一人ひとりの状態を把握し、共有し、トイレでの排泄を基本支援としている。夜間の対応や排泄用品の選択などについて、排泄係りの職員を中心に検討し、一人ひとりの状態に相応しい支援を行っている。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンはチェック表をもとに個々の処方薬の使用と併せて体を動かしたり、水分の摂取や時間をかけてトイレ誘導を行うよう意識しています。		
45	(17)	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴は行っておりますが、必ずしも希望の時間帯でのサービス提供は出来ていないのが現状です。拒否がある方には時間帯をずらしたり翌日に再度声をかけるなどし対応しております。	概ね週に2～3回を目安に入浴支援を行っている。入浴を好まない利用者にも一日の中で様子やタイミングを見計らいながら声を掛け、無理なく入浴できるよう支援している。ホームの花畑で栽培したラベンダーを摘み、乾燥させて、手縫いの袋に入れ、ラベンダー湯にするなど、入浴の楽しさを支援している。	
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の良眠の確保のために、日中の活動を重視しながら疲れを残さないよう個々に合わせた昼間の休憩を取れるように配慮しています。		
47		○ 服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医より、薬の働きや飲み方を説明された表を出して頂き、介護職員でも理解できるようにしています。個人のファイルに挟み常時確認できるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が役割を持って生活できるよう支援を心がけています。日々の関わりの中から楽しみや趣味を見つけ気分転換を図れるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など、希望時にできる限り対応しております。又、知人の家に行きたいなどの希望についてはご家族と相談しながら支援できるよう努力しております。	個人の外出希望には可能な限り対応するように心掛けているとのことである。散歩や買い物に出かけたり、時には家族の協力を得ながら個別支援を行っている。またベランダでお茶を楽しんだり、桜の花は勿論、季節折々の花見、ブルーベリーやぶどう狩り、城下祭りに出かける等 積極的に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて少額所持している方もいらっしゃいます。BPSDにより常時保持が困難な方は、職員が預かり、状況に応じて確認して頂いたりしています。ご本人やご家族からの希望がない方は所持しておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は電話をかけられるよう、その都度、支援しております。かけてほしくない場所もあるご家族もいらっしゃるので個別に情報を頂いておき、対応しております。お手紙も希望された方にはやり取りできるよう支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場はご利用者全員が集まっても狭さを感じない程度の作りになっております。ホールから直接ベランダ、中庭へ出られる作りになっており自由に行き来出来、また壁飾りなどご利用者に作成して頂いた季節の物を張り、季節感も感じられるよう配慮しております。	ウッドデッキ(テラス)に面した大きな梁のあるホールは床暖房、カウンター付キッチン、テレビコーナー等があり、加湿器等で健康管理にも配慮し、2ユニット間の戸を開放すれば一体的な共有の広間にもなり、有効活用が行われている。日当りの良いホールからは山なみや畑の景色が広がり解放感のある心地よい共用の間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに畳のスペースやソファでくつろげるスペースを作り、それぞれの気に入った空間で過ごして頂けるよう工夫をしております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットや棚は備え付けの物を使用して頂いておりますが、入所時やカンファレンスの際にご家族にお話しし、使い慣れたものも持ってきて頂いております。又、ご家族の写真やお手紙、ご本人の作品なども掲示し、安心できる空間となるよう努めております。	ベッド・収納以外は家族の協力を頂き、使い慣れた物、大切にしている品、写真や飾り物等を持ち込んで、一人ひとりの利用者らしい居室となっている。お正月を迎えるにあたり、縄づくりを地域の方より教えて頂き、それぞれの居室入口に掲げる予定で制作中であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアに表示し場所がわかるように、また廊下、トイレ、風呂場に手すりを設置するなど工夫しております。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、グループホーム方針を周知するため、事務所・職員休憩室・ホール等に掲示し、理念・方針に基づいた支援に努めています。		
2	(2)	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	勝間区民として区費の支払いをしています。また、畑を耕運機で耕して頂いたり、ブルーベリー畑を無料で利用させて頂いたり、生花を頂いたりしており、お礼に事業所でご利用者様とクッキーを作り渡しに行くなど交流に努めています。		
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勝間地区の敬老会に参加し、講演の場を設けて頂き、理解を広げていけるよう活動しております。		
4	(3)	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎開催し、事業所の現状・今後の予定や職員体制などを中心に会議を行っています。地区で行われる行事への参加に駐車場などの手配や古布の協力を呼び掛けて頂けるようお願いなど、会議で出た意見を元にそれぞれの立場の方にご協力をいただいています。		
5	(4)	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず市の担当者に来所して頂き情報を頂いています。また、ご家族からの相談等で不明な点について、市町村担当者へ相談し対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で年1回研修会を開催し、身体拘束廃止について周知徹底に努めています。玄関の施錠については検討していますが、改善されていないのが現状です。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修会への参加または、外部研修への参加を通して、虐待についての知識を深める機会を設けています。また、虐待がないかどうか、ケース検討会などを通して確認をしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会はなかなか持てないでいる状況です。成年後見制度を利用されているご利用者は1名いらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・運営事項・個人情報取扱について説明し、それぞれについて、疑問点や不安に感じていることをお伺いし細かく、具体的に説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やカンファレンスでご家族にも参加して頂き、要望や意見を頂けるように努めています。また、重要事項説明書に事業所・市町村・国保連の苦情相談窓口も明記し対応しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年ごとに管理者と職員の面談を実施し、またタイムリーに対応できるよう、会議の場での意見交換を踏まえ運営に反映できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力・業績考課により、職員の資質・力量を把握しています。基準の改正もありましたが、H24年3月11人だった職員に対して現在16人となり、利用者生活の向上は勿論、スケジュール見直しも含め、やりがいを持てるような就業環境改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、また毎週定期的に行いながら、新人研修、委員会の長、エルダーなど経験の長短を問わずその任にあたり、自らの成長を促しています。地元の敬老会に出席し、講演や体操を行うなど、職員育成にも取り組みました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	6月、関東ブロック老人福祉施設研究総会に、管理者、職員の2名が参加し、国の動向や他県の施設の取り組みを研修しました。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人と直接お話できるよう事前面談を行い、ご本人の困っていることや不安・意向などをお伺いしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様には事業所の様子を見て頂いたうえ、面談する機会を設けています。困っていること、不安要素など細かくお伺いしておき、ご利用者が実際に入所されてからの状況について電話連絡を入れております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所について、居宅ケアマネより情報を提供して頂き、相談・検討しています。また、サービスの導入にあたり、直前で再度ご本人・ご家族に意向を確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者同士の関係やご利用者から見た職員の対応などケース検討会を通し、ご利用者の視点に立ったケアに努めております。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の状況をお伝えするとともに、ご本人の思いを聞いて頂いたり、行事に一緒に参加して頂くなどケアへのご協力をいただいております。また、カンファレンスには必ず出席して頂き、ケアの目標など共有しています。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に、生活されてきた中での馴染みの場所や人などお伺いし情報は集めていますが、事業者からの働き掛けはなかなかできないでいる状況です。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士、トラブルになることもあるので、アクティビティーをする際や食事時など孤立しないよう、常に注意を払いケアに努めております。作業工程の中で数人で関わられるよう、声をかけております。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は、相談があれば同法人の特養へ連絡調整しフォローできるように努めております。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員にケア担当をつけご本人の思いなどを聞くようにし、ケース検討会で情報の共有に努めています。また、アセスメントのツールにセンター方式の用紙を導入し始め、本人の視点に立ったケアに取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前やカンファレンス時に、ご家族からも情報を頂き本人の生活のしずらさを少しずつ軽減していけるように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース検討会で一人ひとりについて話し合う機会を持ち、細かく状況を把握し、情報の共有に努めています。また、ケア担当者が中心となりケアの変更も状況に応じて行っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにはご家族、ご本人にも参加して頂き、アセスメントから得た情報をもとに一つひとつの項目について確認しながら計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録に、情報を記載し共有に努め、ケアの中で個々への対応ができるよう配慮しており、アセスメント用紙にまとめる際やケアプラン作成時にも活用しています。ケアプランに沿った記録や評価がきちんとできていないのが現状です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や散歩など、ご本人の希望に出来る限り添えるよう、その場で対応しております。また、急な受診などご家族のニーズにもできる限り対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の文化祭や地元のお祭りなどへの参加に協力頂いたり、また地区のボランティアにも散歩や作業を一緒にして頂いたりする中で、交流の場なども設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続しています。受診時には必要に応じて職員が同行したり、電話やFAXで情報提供し連携がとれるよう取り組んでいます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養看護師と連携を図り、その都度適切なアドバイスを受けられる体制にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には、情報提供書を持参しております。又、入院後は現状を見に行ったり、電話連絡等で状況をお伺いする中で施設への受け入れ確認などを行っています。入院に備え総合病院へ協力をお願いしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に、事業所として出来ること、出来ないことをご家族に説明し、ご利用者の状況に応じてご家族に相談しながら進めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は必ず救急救命講習を受講し、また定期的に法人で行われる研修会に参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際にご利用者全員を誘導する訓練を行い、避難経路について検討、改善に取り組んでいます。夜間の避難訓練の実施は検討中です。また、勝間地区とは防災協定・行方不明者捜索協定を締結しており、運営推進会議でも防災について相談しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念に基づき、意思と人格を尊重したケアを心がけています。また、プライバシー保護の観点から各居室に暖簾を設置し少しでも目隠しになるような配慮を致しました。個人情報の取り扱いについては契約時に同意書を頂き、プライバシー保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思をうまく伝えられない方にも動作や表情から思いをくみ取れるようなケアを心がけております。また、思いを聞きけるような声掛けを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活パターンを把握し、個々のペースや希望に合わせたケアを出来る限り心がけております。また、その日の気分による外出などにもできる限り柔軟に対応できるよう取り組んでおります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	状況に応じて衣服を選んで頂いたり、ご本人・ご家族の希望に合わせて、美容師に月2回訪問して頂き、ご本人の希望に合わせたおしゃれが出来るよう取り組んでおります。パーマや毛染めなど出来るよう体制も整えています。また、ご希望によってネイルケアも行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作りはご利用者も一緒に行えるよう出来る力を見極めながら行っています。又、嗜好調査も行い、献立に反映しております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立作成しており、栄養のバランスには十分配慮しております。又、一日の摂取量を一人ずつ記録に残し状況の把握をする中で、不足している方には栄養補助食品やゼリーを提供するなど工夫しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり洗面台へ誘導し口腔ケアを促しております。うがいが困難になってきている方にはクルリーナブラシを使用して頂いております。		
43	(16)	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個人に合わせた排泄パターンに合わせた誘導を心がけております。又、立位が困難になってきた方でも、なるべく自然排便で出せるようトイレに座って頂くなど工夫しております。		
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩など活動を増やしたり、乳酸菌飲料を食事に取り入れたり、水分を多めに取って頂いたりするなど工夫しております。		
45	(17)	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴は行っておりますが、必ずしも希望の時間帯でのサービス提供は出来ていないのが現状です。拒否がある方には時間帯をずらしたり翌日に再度声をかけるなどし対応しております。		
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の状況を見ながら、倦怠感が見られる時には声をかけ居室へ誘導するなどの対応をしております。又、生活パターンを把握する中で必要に応じて声掛けを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医より、薬の働きや飲み方を説明された表を出して頂き、介護職員でも理解できるようにしています。個人のファイルに挟み常時確認できるようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から得意な事を導き出し、ご本人の様子に合わせて手芸や習字などの作業、洗濯や食事作りなどの家事を行って頂く中で、日々張り合いや楽しみがあるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など、希望時にできる限り対応しております。又、知人の家に行きたいなどの希望についてはご家族と相談しながら支援できるよう努力しております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて少額所持している方もいらっしゃいます。BPSDにより常時保持が困難な方は、職員が預かり、状況に応じて確認して頂いたりしています。ご本人やご家族からの希望がない方は所持しておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は電話をかけられるよう、その都度、支援しております。かけてほしくない場所もあるご家族もいらっしゃるので個別に情報を頂いておき、対応しております。お手紙も希望された方にはやり取りできるよう支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場はご利用者全員が集まっても狭さを感じない程度の作りになっております。ホールから直接ベランダ、中庭へ出られる作りになっており自由に行き来出来、また壁飾りなどご利用者に作成して頂いた季節の物を張り、季節感も感じられるよう配慮しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに畳のスペースやソファでくつろげるスペースを作り、それぞれの気に入った空間で過ごして頂けるよう工夫をしています。		
54	(20)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや棚は備え付けの物を使用して頂いておりますが、入所時やカンファレンスの際にご家族にお話しし、使い慣れたものも持ってきて頂いております。又、ご家族の写真やお手紙、ご本人の作品なども掲示し、安心できる空間となるよう努めております。		
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアに表示し場所がわかるように、また廊下、トイレ、風呂場に手すりを設置するなど工夫しております。		

目標達成計画

作成日:平成26年3月7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人が有する理念の基、目標を設定している。地域密着型の特性を踏まえたものに検討していく必要がある。	グループホーム独自の理念や方針・目標を掲げる。	職員会議で意見交換を行う。ご利用者様の声を反映させたり地域でのグループホームの在り方など多方面から検討する。	3ヶ月
2	33	ご利用者様ご本人の状態に合わせてご家族にお話をしているが、ターミナルケアについて書面等での明確化が必要である。	グループホーム独自の考え方、出来る支援について方針を作成する。	法人内のターミナルケア委員会・施設長・看護課長・協力医等に意見を求めながら現場職員と検討し作成していく。	10ヶ月
3	35	災害発生時、職員の行動について曖昧な点があり、実際の災害時に備えた訓練が必要である。	夜間訓練の実施、法人内特養との連携が取れる体制を作る。	法人内に安全対策委員会が設置されており、今年度より委員として参加する。施設外への避難経路は確保し工事中。職員へ避難経路についての周知徹底を図っていくと共に災害時の連携についてのマニュアルも作成していく。	6ヶ月
4	27	ケアプランに沿ったケアの実施状況について記録がわかりにくい。	具体的なケアプランの立案と見直しやすい記録の実施。	法人内で行うケアマネの勉強会の実施と職員への伝達。記録係中心に記録についての検討を行っていく。	6ヶ月
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNoを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。